

# MCCIR

vol. **27** 株式会社メガチップス  
2017年3月期のご報告  
2016年4月1日~2017年3月31日

2017年3月期のご報告  
2016年4月1日~2017年3月31日

## MegaChips

株式会社メガチップス

〒532-0003 大阪市淀川区宮原1丁目1番1号 新大阪阪急ビル  
TEL.06-6399-2884(代) FAX.06-6399-2886

<http://www.megachips.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



この報告書は植物油インキを  
使用して印刷しています。

### 株主メモ

決算日 毎年3月31日  
定時株主総会 毎年6月  
基準日 毎年3月31日  
配当基準日 毎年3月31日  
この他、取締役会の決議により、  
予め公告して基準日を定めることが  
できます。

1単元の株式数 100株  
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 〒541-8502  
お問合せ先 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部  
電話：0120-094-777(通話料無料)  
受付時間：土・日・祝祭日等を除く  
平日9:00~17:00

公告の方法 電子公告により行います。  
公告掲載URL  
<http://www.pronexus.co.jp/koukoku/6875/6875.html>  
(ただし、電子公告によることが  
できない事故、その他のやむを得ない  
事由が生じたときは、  
日本経済新聞に掲載します。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなります。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんので、ご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いします。

## P2 社長が語る業績と戦略

新製品開発とグローバル企業の顧客開拓が進み、  
中期成長への構造転換が一層進展しました。

## P5 特集 メガチップスの主要製品



郵便はがき

261-8790

料金受取人私郵便

美浜局承認

3013

千葉県千葉市美浜区中瀬1-3 幕張テクノガーデンB棟5F  
株式会社メガチップス  
広報課 ハガキ集計係

差出有効期間  
平成29年8月  
31日まで  
(切手不要)



### 株主様アンケート

お手数ですが、ハガキにご回答の上、ポストへご投函くださいますようお願いいたします。

株主様のプロフィールをご記入ください。

性別：男性 女性  
年齢：10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代~  
職業：会社員 自営業 公務員 主婦 その他( )  
当社株式保有数：  
単元未満(100株未満) 100-199株 200-299株  
300-399株 400-499株 500-999株 1,000株以上  
当社株式保有期間：  
1年未満 1年以上3年未満 3年以上5年未満  
5年以上10年未満 10年以上  
居住地：  
北海道 東北 関東 中部 近畿 中国 四国  
九州・沖縄

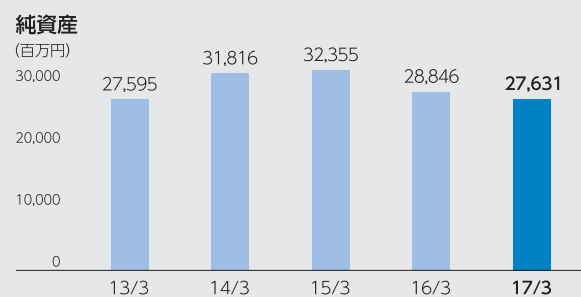
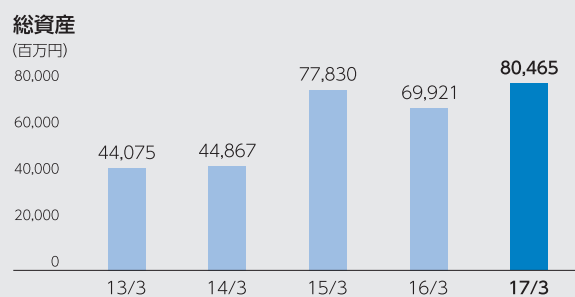
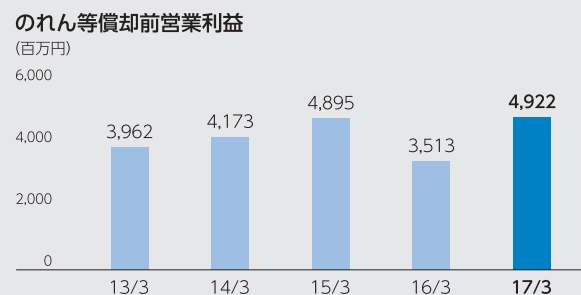
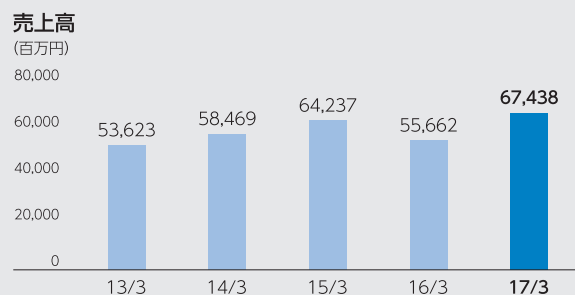
※ご記入いただいた情報は、アンケート集計以外の目的には使用いたしません。  
※2017年8月15日までに投函ください。

ハガキをご投函の際は、点線にそって切り離してください。

株式会社メガチップスおよび連結子会社 3月31日に終了した連結会計年度

	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3
会計年度(単位:百万円)					
売上高	53,623	58,469	64,237	55,662	67,438
売上原価	40,568	43,348	45,263	39,233	48,667
のれん等償却前営業利益	3,962	4,173	4,895	3,513	4,922
のれん等償却後営業利益	3,962	4,173	4,895	-335	1,926
親会社株主に帰属する当期純利益	4,044*1	4,725*2	1,251	-782	-947*3
会計年度末(単位:百万円)					
総資産	44,075	44,867	77,830	69,921	80,465
純資産	27,595	31,816	32,355	28,846	27,631
1株当たり情報(単位:円)					
1株当たり当期純利益	170.23	202.40	55.64	-35.24	-44.14
1株当たり純資産	1,181.89	1,362.64	1,438.09	1,341.86	1,280.71
期末発行済株式総数(単位:株)	24,038,400	24,038,400	24,038,400	23,038,400	23,038,400

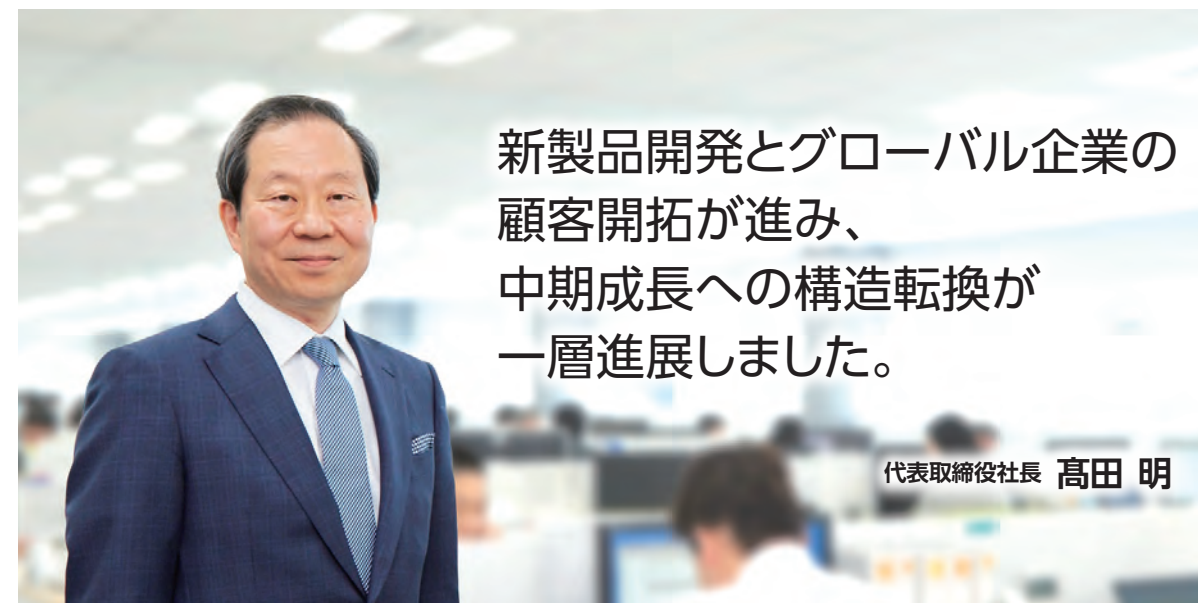
\*1 2013年3月期は、川崎マイクロエレクトロニクス(株)(以下、川崎マイクロ)の全発行済株式を取得した際、取得時の時価純資産額が取得価額を上回った額14億6百万円を“負ののれん”として「特別利益」に計上しています。  
 \*2 2014年3月期は、川崎マイクロの吸収合併に伴い、承継した税務上の繰越欠損金等で回収可能性の認められるものについて繰延税金資産を計上し、これにより発生した税額調整(利益)23億7千4百万円を「法人税等調整額」に含めて計上しています。  
 \*3 2017年3月期は、当社の生産委託先であるマクロニクス社(Macronix International Co.,Ltd.)の株式評価損を主とする「投資有価証券評価損」11億5千8百万円を「特別損失」に計上しています。



Contents

- 1 財務ハイライト
- 2 社長が語る業績と戦略
- 3 研究開発
- 4 特集 メガチップスの主要製品
- 5 会社情報/役員構成
- 6 株主様ラウンジ

見直しに関する注意事項  
 当報告書の記載内容のうち、歴史的事実ではないものは将来に関する見直しおよび計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。



新製品開発とグローバル企業の顧客開拓が進み、中期成長への構造転換が一層進展しました。

代表取締役社長 高田 明

業績の概況

新製品の立ち上げも寄与し、売上高は過去最高を達成しました。

2017年3月期の当社は、引き続きゲーム機器、デジタルカメラ、事務機器などASIC(顧客専用LSI)事業の競争力強化とともに、モバイル、IoT分野のASSP(特定用途向けLSI)製品の拡充などを通じてグローバル事業を拡大しました。

ASIC事業ではゲームソフトウェア格納用LSI(カスタムメモリー)の新製品需要が増加したほか、ASSP製品のMEMSタイミングデバイスにおいて米国の大手IT企業との取引を中心にモバイル向け売上が伸長し、売上・出荷個数も2015年3月期と比べ約4倍に拡大しました。

その結果、売上高は674億3千8百万円と過去最高を達成しました。各利益は、海外企業の買収に伴うのれん等償却前の営業利益は49億2千2百万円、償却後の営業利益は19億2千6百万円、経常利益は9億9千4百万円となりました。また、特別損失としてマクロニクス社(Macronix International Co.,Ltd.)株式の投資有価証券評価損が11億5千8百万円発生し、親会社株主に帰属する当期純損失は9億4千7

百万円となりました。

2017年2月2日に公表した2017年3月期連結業績予想では、売上高640億円、営業利益12億円、経常利益10億円、親会社株主に帰属する当期純損失10億円としていましたが、この前回予想に対して売上高は上回り、各利益については、主に米ドルの為替差の影響による海外子会社との連結調整が営業利益の増加要因となった一方で、その調整となる為替差損が営業外損失に計上され、経常利益は見込みどおりの結果となりました。

このようにゲーム機向け新製品寄与やMEMSタイミングデバイスの採用拡大・売上の急進など、2017年3月期は中期の新たな成長分野への取り組みが順調に進展しました。

2018年3月期の中期経営方針

成長分野に向けたASSP事業と安定した事業基盤であるASIC事業との両輪で、グローバルな事業拡大を目指します。

あらゆるモノがネットワークにつながるIoT社会の到来により半導体需要はますます伸長していくものと思われま。当社グループはこうした動きをさら

なる成長の機会と捉え、**安定した事業基盤である優良顧客向けASIC事業と、成長市場で高い競争力を持つASSP事業を両輪とし、グローバル市場で成長していくことを目指します。**

ASIC事業においては、主力分野であるゲーム機器、デジタルカメラ、事務機器分野に加え、新規分野における国内外の有力顧客の開拓に取り組んでいます。**新規分野として注力するのは、自動運転や安全支援などのニーズにより高速通信技術が必要とされる「車載分野」と、工程や品質、進行状況などさまざまな情報連携・管理を行って生産性を高めるFA、ロボティクスなどの「産業機器分野」です。**当社がこれまで培った高速通信分野の独自のIP(設計資産)、アナログ技術などのコア技術を核として事業展開を図ります。

ASSP事業では、IoT時代の到来により、さらに成長する機器市場の有力グローバル企業に向けたビジネスを立ち上げています。特に**MEMSタイミングデバイスおよびSmart Connectivityの両製品を核としてビジネス展開を加速します。**この2製品の

概要と主な取り組みについてご説明します。

Smart Connectivity (DisplayPort、以下DP) 製品は、PC、ゲーム機、AV機器、モニターなどの映像／音声の出力元・入力先をはじめ、スプリッタ(分配器)、コネクタなどに入っており、Smart Connectivityのリーディングカンパニーとして幅広い製品を有しています。さらに、今後の標準規格として市場拡大が見込まれる「USB Type-C」向け製品の採用も国内外ですでに始まっています。

MEMSタイミングデバイスとは、正しい時間で電子機器を動作させるための基準信号(クロック)を生み出す部品であり、あらゆる電子機器に用いられています。当社のタイミングデバイスはシリコンを材料としており、これまで主役であった水晶製品を凌駕する性能(時間精度、振動や急激な温度変化に対する安定性)・サイズを実現しています。現在、モバイル・ウェアラブル機器に最適なデバイスとして採用が急速に広がっています。今後は、厳しい環境の中で高い性能と長期の安定性が要求される携帯基地局や通信基幹網などの情報通信ネットワーク装置向け、

自動運転などの車載向けの新製品を発売し、新たな顧客開拓に取り組んでいきます。

このように、当社はグローバル企業を目指してIoT分野、通信インフラ分野、車載・産業機器分野を中心に新製品の積極的な投入を推進し、さらなる事業拡大と持続的成長を図る考えです。

2018年3月期の業績見通し

中期経営方針に沿った戦略を進め、増収増益を見込んでいます。

これからの社会環境は、情報通信機器に依存した産業構造がますます進展していくことが予想され、高性能化ニーズやアプリケーションの広がりとともに、小型・薄型・省エネに貢献する電子部品を中心とする需要拡大が期待されます。

このような状況のもと、ASIC事業では、高速通信分野のコア技術を核として、車載・産業機器分野向けに応用分野の拡大と国内有力顧客の獲得を図ること、また、ASSP事業では、MEMSタイミングデバイスおよびSmart Connectivityの両製品を核として、IoT分野、車載分野、通信インフラ分野に向けて、グローバルビジネス展開を加速させていきます。

これらの取り組みにより、**2018年3月期における通期の連結業績は、売上高700億円、親会社株主に帰属する当期純利益2億円と、増収増益を見込んでいます。**

2018年3月期の連結業績予想 (単位:百万円)

	2018年3月期 予想	2017年3月期 実績
売上高	70,000	67,438
のれん等償却前営業利益	4,100	4,922
のれん等償却*	2,800	2,996
のれん等償却後営業利益	1,300	1,926
経常利益	1,000	994
親会社株主に帰属する当期純利益	200	-947
1株当たり当期純利益(円)	9.28	-44.14

\* 積極的に行った海外企業買収に伴う、のれん、無形固定資産の償却。

株主様への還元について

株主様への利益還元に努めるとともに機動的に自己株式取得を適宜実施し、株式価値と資本効率の向上を進めます。

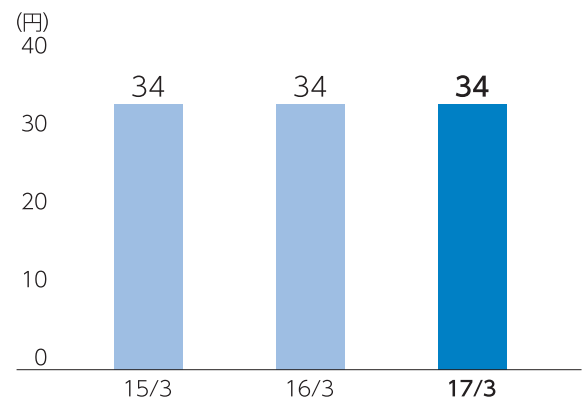
当社は株主の皆様への適切な利益還元を重要な経営課題のひとつと位置づけています。持続的な利益還元と会社の成長を目指し、今後の会社の経営状況を勘案した上で積極的な利益還元を努めていきます。

株主配当については、中期的な経営状況の見通しを考慮した上で、親会社株主に帰属する当期純利益の30%以上に相当する額を配当金総額とします(ただし、会計・決算・税務上の特殊要因を勘案の上、加減算することがあります)。これを期末時点で保有する自己株式数を差し引いた期末発行済株式数で除した金額を配当金として決定し、年1回実施する方針です。この方針に沿って、**2017年3月期の1株当たりの配当は、前期に引き続き年間34円と決定しました。**

2018年3月期の1株当たりの年間配当は未定ですが、方針に基づいて実施する予定です。決定しましたら、リリースを行うとともにホームページ上でお知らせします。

今後も、株主の皆様への積極的な利益還元を努め、株式価値と資本効率の向上に努めてまいります。株主の皆様には、引き続きご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

1株当たり配当金推移

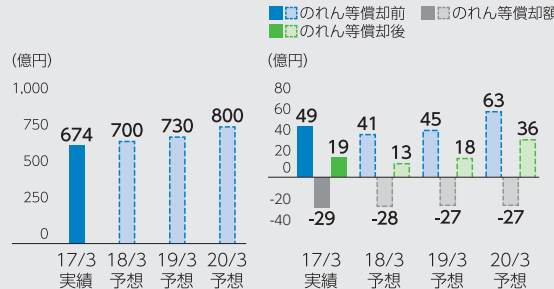


2018年3月期 中期経営方針および業績予想

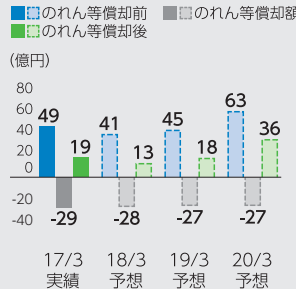
基本方針

- 1 高速通信分野のコア技術を核として、車載、産業機器分野向けに、応用分野の拡大と国内有力顧客の獲得を図る。
- 2 MEMSタイミングデバイスおよびSmart Connectivityの両事業を核として、グローバル有力顧客のビジネス拡大を行うとともに、車載、IoT、5Gインフラ分野に向けてビジネス展開を加速する。
- 3 中長期の新たなビジネス展開に向けて、人材のグローバル化を推進する。

売上高



営業利益



用語解説  
KEYWORD

**IoT** ▶「Internet of Things」の略。情報・通信機器をはじめ、日用品、家電、建物、クルマなど、世の中のさまざまな“モノ”をネットワークにつなぎ、相互に通信・制御する仕組みや技術を指します。

**FA** ▶「Factory Automation」(工場自動化)の略。工場における作業・工程を機器やシステムを用いて自動化すること。生産性向上、品質の均一化、機器故障やライン停止の未然防止などのメリットがあります。

**ロボティクス** ▶センサ、人工知能(AI)など、ロボットに関する技術研究のこと。将来的な労働力不足が予想される中で各分野へのロボット導入は不可欠とされており、市場拡大が見込まれています。

IoT 社会に貢献!

# メガチップスの製品は多様なデジタル機器の中で暮らしと産業を支えています

メガチップスは、ファブレス(工場を持たない)メーカーとして研究開発に特化し、独自のLSIを開発。自動車や医療機器、産業機器、オフィス機器など、身の回りのあらゆる“モノ”がネットワークにつながる「IoT社会」を見据えて、機器開発に不可欠な製品やソリューションを提供しています。

## 1 ゲーム機器向けLSI

大容量・低価格・低消費電力のゲームソフトウェア格納用LSI(カスタムメモリー)など、ゲーム機を支える各種LSIを提供しています。

## 3 ホームネットワーク・アクセスネットワーク向けLSI

家電をつないで、映像・音楽を共有し楽しむための高速家庭内ネットワークや、高速インターネットアクセスを実現する有線通信向けLSIを提供しています。

## 5 MEMS タイミングデバイス

シリコンを材料とし、水晶製品よりも多くの利点を持つことから産業・民生・通信基地局など多様な電子機器への採用が急速に進んでいます。

## 7 車載向け Ethernet PHY

高信頼かつ高速・大容量通信を実現した車載向け Ethernet PHY を日本のメーカーで初めて開発し、クルマの安心・安全・快適な運転環境を支援していきます。

## 9 事務機器向けLSI

オフィスに欠かせない複合機をはじめとする事務機器に向けて、画像処理機能をつかさどる大規模なLSIを開発・提供しています。

## 2 液晶パネル向けLSI

液晶ディスプレイに内蔵するデータ伝送用LSIを提供。液晶テレビ/モニター、ノートパソコン、タブレット、車載ディスプレイなどに使われています。

## 4 映像インターフェイス向け Smart Connectivity LSI (DisplayPort)

美しく高精細な映像伝送を実現するLSIとして、AV機器やパソコン、高解像度モニター、デジタルサイネージ(電子広告)などに採用されています。

## 6 デジタルカメラ等向けLSI

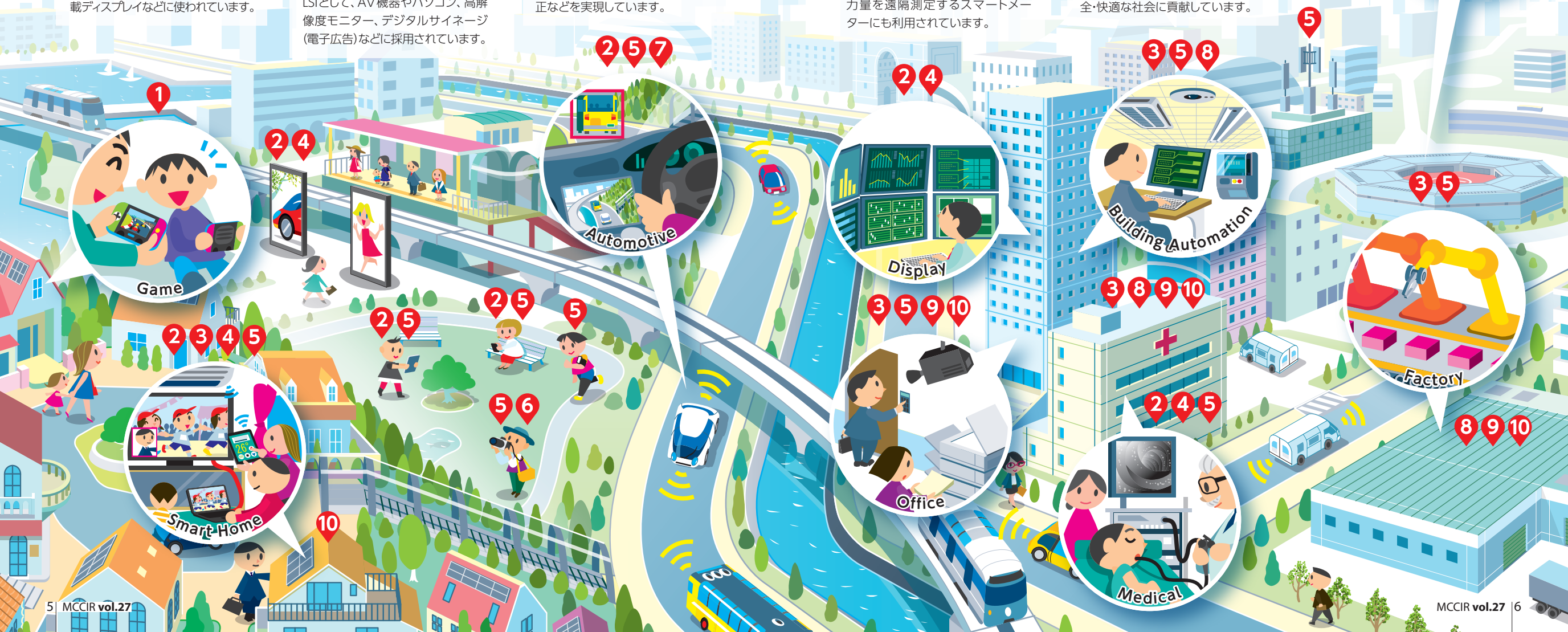
デジタルカメラ向けの画像処理LSIで、世界最高レベルの高解像度・高画質画像処理、ノイズ軽減、逆光補正などを実現しています。

## 8 産業用途向けLSI (電力線・同軸線通信)

既存の電力線などを活かしてオフィスや工場の通信インフラを実現。電力量を遠隔測定するスマートメーターにも利用されています。

## 10 セキュリティシステム機器

映像監視用のネットワークビデオレコーダー、ネットワークカメラなどのセキュリティ機器を開発し、安心・安全・快適な社会に貢献しています。



## アナログ/デジタル/MEMS技術を融合し、 独創的な製品を創出しています

メガチップスは、独自のコア技術を活用して顧客ニーズに応えるとともに、他社製品との差別化を実現する応用技術の研究開発に取り組んでいます。また、こうした研究開発による優位性と独自性を確保するために、知的財産の権利化を推進しています。

**研究開発方針**

独自のアナログ/デジタル/MEMS技術を  
駆使したシステムLSIおよび  
当該製品を利用した  
ソリューションを提供すること

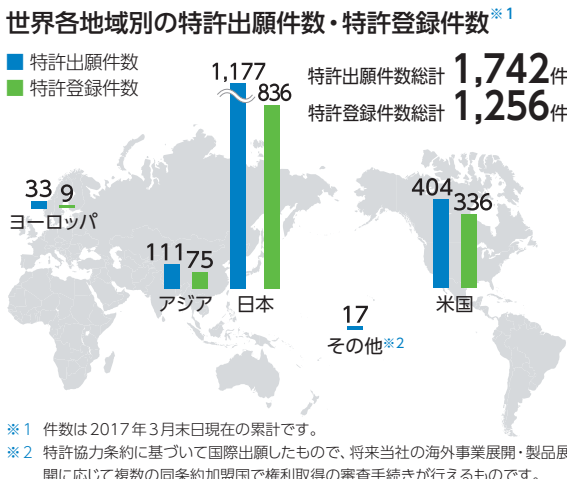
### 2017年3月期 研究開発の主な成果

<b>LSI製品の開発</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ゲーム機向けゲームソフトウェア格納用LSI</li> <li>● 液晶パネル向けタイミングコントローラLSI</li> <li>● 光通信向けIP、LSI</li> <li>● アナログフロントエンドLSI</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 有線(同軸線、電源線)マルチホップ通信向けLSI</li> <li>● Smart Connectivity LSI (DisplayPort)</li> <li>● MEMS タイミングデバイス</li> </ul>
<b>その他製品の開発</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フルデジタル映像記録・伝送システムの機能拡張およびカスタム開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● セキュリティ用カメラシステムのラインナップ追加開発</li> </ul>

### 知的財産戦略

ファブレスメーカーであるメガチップスにとっては、研究開発の成果や独創的なアイデアなどの知的財産が事業競争力の源であり、知的財産を権利として保護することが競争力や成長力の向上につながります。

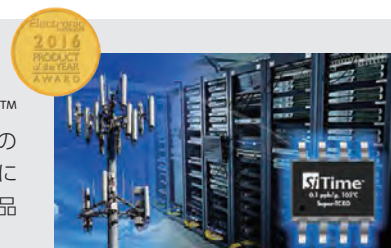
2017年3月期は、開発製品における技術として「液晶パネルコントローラ向け画像処理/データ転送」「ゲーム機向けセキュリティ」「メモリ制御」「ジェスチャ検出」「画像認識」に関する特許を出願しました。また基礎/応用技術として「状態推定」に関する特許を出願しました。



### TOPICS

#### 大手業界誌のProduct of the Yearを2年連続受賞

メガチップスの子会社、米国SiTime社のMEMSタイミングデバイス「Elite Platform™ Super-TXCO」が電子設計エンジニア向け有力業界誌「Electronic Products」のProduct of the Yearに選定されました。この製品は、革新的な構造・技術の採用によって、高温、衝撃、振動などの高負荷環境下でも優れた性能や信頼性、サービス品質を発揮できるようにしたものです。



会社商号	株式会社メガチップス
英文商号	MegaChips Corporation
設立	1990年4月4日
上場	東証1部 (証券コード6875)
資本金	4,840百万円
従業員数	851名 (2017年3月31日現在 連結)
事業内容	システムLSI、自社システムLSIを使った電子部品およびシステム製品の設計・開発・製造(外部委託)・販売

所在地	<b>本社</b> 〒532-0003 大阪市淀川区宮原1丁目1番1号 新大阪急ビル TEL. 06-6399-2884 (代表)
	<b>東京事業所</b> 〒102-0082 東京都千代田区一番町17番地6 一番町MSビル
	<b>幕張事業所</b> 〒261-8501 千葉県美浜区中瀬1丁目3番地
	<b>主な海外拠点</b> MegaChips Technology America Corporation SiTime Corporation MegaChips Taiwan Corporation MegaChips Corporation, China India Branch

### 役員

 代表取締役社長 高田 明 (たかた あきら)	 取締役副社長 松岡 茂樹 (まつおか しげき)	 専務取締役 藤井 理之 (ふじい まさゆき)	 専務取締役 吉清 恭一 (きよせい きょういち)	 取締役 肥川 哲士 (ひかわ てつお)	 取締役 林 能昌 (はやし よしまさ)
 取締役 下前 泰人 (しもまえ やすと)	 取締役 明山 浩一 (あけやま こういち)	 社外取締役 赤星 慶一郎 (あかほし けいいちろう)	 社外取締役 游 敦行 (いろう だんしん)	 社外取締役 富永 千里 (とみなが ちさと)	
 社外取締役 頼 俊豪 (らい じゅんはお)	 常勤監査役 角 正 (すみ ただし)	 社外監査役 小原 望 (おはらのぞむ)	 社外監査役 北野 敬一 (きたの けいいち)	 社外監査役 浅田 勝彦 (あさだ かつひこ)	

※ 取締役 赤星 慶一郎氏、游 敦行氏、富永 千里氏および頼 俊豪氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。  
 ※ 監査役 小原 望氏、北野 敬一氏および浅田 勝彦氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

## 株主様アンケートのご報告

「MCCIR vol.26」誌上のアンケートに対し、912名の株主様からご回答をいただきました。誠にありがとうございます。株主様からお寄せいただいた貴重なご意見は、今後の経営およびIR活動に活かしてまいります。

### 株主様の声

- Close Up(製品紹介)の記事に興味深く、メガチップスへの理解が深まった。
- 中期経営計画や新技術に関する情報をもう少し詳細に知りたい。
- 業界内での強みや競合他社との違いを説明してほしい。
- メガチップスの社会貢献活動や地域貢献活動についても紹介してほしい。
- 専門用語が多く、用語解説は必須なので今後も引き続き掲載してほしい。

## 2017年度の株主優待について

メガチップスでは、株主の皆様の日頃のご支援に対して感謝の意を表するため、株主優待制度を設けています。3月31日現在で当社株式を100株(1単元)以上ご所有の株主様を対象に、心ばかりの品を贈呈させていただきます。

2017年度は次のとおり所有株式数に応じて、百貨店提供の優待品カタログからお選びいただきました商品1点をご優待品としてお届けしています。



株式会社大丸松坂屋百貨店カタログ

### 2016年度 人気優待ランキング

1	豊水梨
2	青森りんご100%ジュース(ストレート)
3	肩口フィット枕(西川リビング)
4	宮崎県産黒毛和牛 しゃぶしゃぶ用
5	チキンバラエティセット
6	ブラッシングブラシ(ケント)
7	フルーツゼリー
8	新潟県産特別栽培米こしひかり
9	横浜ロイヤルパークホテル 野菜カレー
10	ポーグロフ・焼豚詰合せ(プリマハム)

所有株式数	カタログ内容
100株以上300株未満	2千円相当の商品
300株以上500株未満	3千円相当の商品
500株以上	5千円相当の商品 もしくは、当社指定の任天堂社製ゲーム機用ソフトウェア

**ご注意** 株主優待は、毎年3月31日現在の株主名簿に記録された、100株(1単元)以上ご所有の株主様を対象に行っています。ご転勤などでご住所を変更される場合は、証券会社等口座開設先に必ず住所変更届をご提出ください。株主優待に関する当社からのご案内書がお届けできない場合が少なからず発生しています。なお、株主優待品につきましては、申込受付期日を過ぎますとお受けできなくなりますので、ご注意ください。

### 優待品のお申し込みや配送に関するお問合せ

メガチップス株主優待事務局  
フリーコール：0120-995-170  
受付時間：9時～17時 月～土曜日(祝日を除く)

## 今後の活動予定(IRカレンダー)

### 2017年

8月  
アニュアルレポート  
(英文版)発行

ホームページ掲載情報  
●アニュアルレポート  
(英文版)

8月2日  
第1四半期  
決算発表

ホームページ掲載情報  
●最新決算報告  
●決算短信  
●決算説明会資料  
●第1四半期報告書\*  
※8月9日発行予定

10月27日  
第2四半期  
決算発表

ホームページ掲載情報  
●最新決算報告  
●決算短信  
●決算説明会資料  
●第2四半期報告書\*  
※11月10日発行予定

### 2018年

12月  
中間MCCIR発行

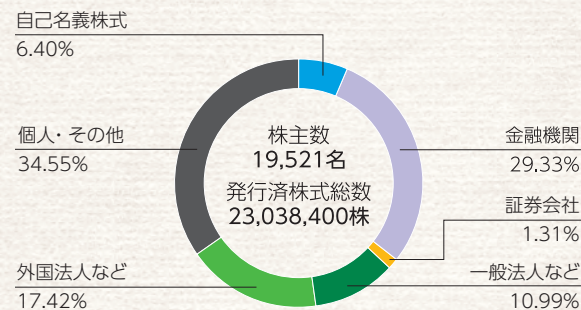
ホームページ掲載情報  
●中間MCCIR

2月1日  
第3四半期  
決算発表

ホームページ掲載情報  
●最新決算報告  
●決算短信  
●決算説明会資料  
●第3四半期報告書\*  
※2月13日発行予定

## 当社の株主構成

所有者別株式分布(2017年3月31日現在)



## 当社の社会貢献活動

「キャンパスベンチャーグランプリ大阪」は、毎年開催される関西の学生を対象にした新事業提案コンテストです。

若い起業家の輩出が日本経済の成長につながると考え、このグランプリに協賛し、継続的に審査委員を務めています。



第18回キャンパスベンチャーグランプリ大阪 表彰式

Q1 株主通信「MCCIR」vol.27の内容で、興味を持たれた記事・コーナーをお選びください。(複数回答可)

- P1 財務/ハイライト
- P2-4 社長が語る業績と戦略
- P5-6 特集 メガチップスの主要製品
- P7 研究開発
- P8 会社情報/役員構成
- 株主様ラウンジ (株主様の声)
- 株主様ラウンジ (2017年度 株主優待)
- 株主様ラウンジ (IRカレンダー)
- 株主様ラウンジ (株主構成)
- 株主様ラウンジ (社会貢献活動)

Q2. 今後、詳しく掲載を行ってほしい情報は何か。(複数回答可)

- 経営者メッセージ
- 経営方針
- 中期経営計画
- 業績・財務情報
- 事業内容
- 新技術情報
- 配当
- CSR情報
- その他 ( )

Q3. 今後強化してほしいIR活動・ツールは何か。(複数回答可)

- 当社ホームページ
- MCCIR (株主通信)
- 個人投資家説明会
- IRフェアへの出席
- 株主総会
- IR雑誌や新聞への掲載・広告出稿
- その他 ( )

Q4. 当社ホームページをご覧になったことはありますか?

- ある
- ない

Q5. 株主通信「MCCIR」のご感想またはIR活動への要望をお聞かせください。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

IR活動の充実に向け  
株主様アンケートにご協力ください

(2017年8月15日)まで受付